



入学・進級特集号

Chapel News No.141

大学礼拝

第141号 東北学院大学 2018年4月1日



宗教部長
野村 信

巻頭言

「さあ、始めよう」

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」
(コリント人への第二の手紙五：一七)

新入生の皆さん、そして進級された在校生の皆さん、新しい出発おめでとうございませう。この時が、みなさんにとって希望に満ちた幸いな時でありますように心からお祈りいたします。

まだ白紙の状態の一年を前にして、これからどのような足跡をつけるか、どのような色のついた一年にするかは、すべての人にとって未知で、不安になる人もいるでしょう。そこで、あまり先のことを考えず、みんなと同じように過ごしてればなんとかなると思っている人がいるかもしれません。あるいは去年と同じように過ごしていれば今年もうまくいくと思う人もいます。

しかし、自覚的に始めましょう。「さあ、始めよう」と自分に言い聞かせ、目の前の小さなことから取り掛かりましょう。小さなこ

とを自覚的に始めることで「始める」という習慣が身に付き、大きな目標に向かって積極的に始められます。

大きな目標とは皆さんにとって何ですか。当面のところ無事に一年間に修得すべき単位を取ることでしょう。さらに四年間で卒業し、希望する会社に就職すること、あるいは公務員や教師になることを目指している人もいます。さらに大きな目標を立てる人もいます。

ただ、目標は立てられても、なかなかそこに向かって進んで行けない、思うようにいかないのが現実です。そこでつい怠けてしまつ、脇道にそれてしまいます。それは誰しも繰り返して体験してきたことです。

幸いにして、私たちには想像力という能力が与えられていますから、一年後、こんな自分がいるという青写真、設計図を描くことは誰でもできます。それに向かって一日一日進んで行ってください。一年後には、手ごたえのあった、良い一年だったと、振り返られることを期待しています。

聖書は、いつも人間の出発を描きます。その生涯を簡潔に、あるいは詳しく描きます。聖書は人間の生き方について書いている書物なのです。皆さんは、聖書を繰り返し学ぶことになりませんが、そこに描かれている人間たちはキリストに出会って常に新しく出発しています。

どうかこの時、「始める」ということが、私たち人間にとって、神から賜った意志であり、大切な姿勢なのだ、ということを中心に留めて、幸いな出発をして下さい。

「有意義な4年間を」



院長

佐々木 哲夫

「信仰を持って生きていくかどうか自分を反省し、自分を吟味しなさい。」

(二コリント一三・五)

入学生の皆さん、これから始まる東北学院の四年間を、社会において託される仕事の準備期間として「反省し吟味しつつ」(二コリント一三・五)、有意義に過ごして頂きたいと願います。

反省や吟味という言葉に出会うと、私は、三人の青年のことを思い出します。新米牧師としてある教会に赴任した三〇歳前の頃のことです。立て続けに三人の独身青年が教会の門を叩いてくれました。一人は仏教系の宗教団体の経験者、一人は教会に通った事のある求道者、一人は建具職人の若者でした。三人に平等に接していたのですが、やがて、最初の青年が来なくなりしました。会って話してみると、教会は礼拝ばかりで社会活動をおろそかにしている。福祉活動に参与すべきだと主張しました。しばらくして二人目の青年が教会出席をやめると告げてきました。理由を聞くと、

前の教会の牧師は食事に自分を招いてくれたがこの教会の牧師は誘ってくれなかったというのです。私自身反省吟味させられました。三人目の青年は、継続して教会に通っています。ある日、教会に通う理由を聞いてみました。

彼はいつものように柔和な笑顔のゆっくり口調で話しました。「熱心な仏教系団体の信者である両親から、夜寝る前に今日の一日を反省しなさいと小さい頃から躡けられて育ちました。教会の教えはどんなものかと興味を持って通い始めたのですが、日曜日の夜は、礼拝説教の内容を思い出して反省しました。また聖書箇所を再度開いて自分を吟味しました。それが今も続いているのです。」彼は聖書の言葉に繋がっていたのでした。

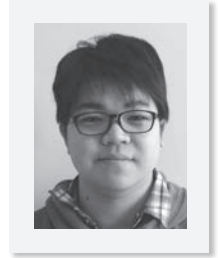
やがて、洗礼をうけ、結婚し、教会の役員にも選ばれ、充実した歩みをしていました。私は留学のために教会を辞し渡米しました。やがて、彼が癌のため亡くなったという報が届きました。

聖書の言葉によって自分を顧みることは、豊かに成長する秘訣です。有意義な四年間になる事を祈念致します。

「心の貧しい人々〔謙虚な人々〕は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」

(マタイ五・三)

新入生たちへ



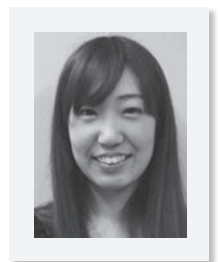
文学部卒

原 耕作

(神学校に進学)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。この東北の地でこれから四年間の学びをスタートする皆さんですが、四年間でどんな自分になりたいと考えているでしょうか。突然四年後のことを聞かれても、「そんなのまだ想像つかないよ」と思うでしょう。私もそうでした。私が入学してすぐに熱中したのは、アカペラサークルでの活動でした。自分もともと高校でバンド活動を行っており、大学でも軽音楽サークルに入るつもりでした。しかし、高校と同じことをやるのはつまらないと感じ、新しい音楽に挑戦しようと、アカペラサークルでの活動を選びました。

新しいことを始めるには、大きな勇気とやる気が必要です。しかし、せっかく新しい環境へ飛び込むんです。何か新しいことを始めてみてください。そしてそれを必ず最後までやり通してください。そうすれば、必ずなりたい自分へと近づくはずですよ。



教養学部卒

幕田菜月

(金融機関に就職)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。私にとって大学生活とは、自分自身の行動と選択がより重要になったと感じられます。高校とは違い、自発的に行動しなければならないのが大学生の特徴であることはもちろん、その中で何を学ぶか、何をやるか、どんな自分になりたいか、日々様々な選択を続け、今の私に至っているのだと思います。

私は聖書研究会に三年間、聖歌隊に一年間所属しました。聖書研究会は、神の言葉に耳を傾ける貴重な時間であり、自分の生き方の参考にもなりました。聖歌隊では音楽好きな人と沢山関わることで、礼拝堂で素晴らしい合唱ができてとても楽しく、貴重な思い出となりました。

その他にも勉学、バイト、習い事、沢山のことに追われる日々でしたが、これらの経験が就職活動で活かされ、自身の成長に繋がることなので、是非新入生の皆さんにも沢山の出会いと経験をしていただきたいです。最後に、東北学院大学で充実した四年間を過ごせるよう心からお祈りいたします。



文学部卒

山田 保

(会社に就職)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。皆さんの学生生活が充実したものとなりますよう応援致します。

大学では今までの学生生活とは大半の方が違うと感じるでしょう。その違いは時間の使い方が各自に大きく委ねられていることです。講義に力を入れるのもよし、バイトに費やすのもよし、はたまたサークルや資格勉強など、様々な過ごし方が大学では為すことができます。

しかし、これだけは是非して欲しいものがあります。それは色んな人と関わることです。周りの友人や先生方、バイト先の先輩など、色んな人と関わっていく中で、自分自身を深く研究し、より広い視野が得られる絶好の機会が大学にはあります。ただ一人で過ごそうと思わず、積極的に色んな行事や集まりに参加し、それらからの関わりを通して良い刺激を受けて欲しいと思います。

新入生の皆さんへ

先輩たちの語る

大学生活あれこれ

——新入生みなさんに少しでも参考に
なればと思い、上級生の皆さんに二回
にわたって大学礼拝や日々の生活につ
いて日ごろ感じていることを自由に話
してもらいました。

★大学礼拝について

——大学礼拝に出席した印象はどう
でしたか。

学生 A 始めて泉キャンパスの礼拝堂
に入った時は驚きました。ステンドグ
ラスがとてもきれいで、本物のパイプ
オルガンの音も、まじかに聞けてすご
くよかったです。現在は大学の礼拝に
は月に数回出席しています。知ってい
る讃美歌を歌う時はうれいけど、知
らないとなかなか歌えません。説教は
聖書をいろいろに解釈していると思っ
けど、理解するのが難しいと思います。
——説教をわかりやすく、しかも内容
を豊かに語るとはとても大変なこと
なのです。私たちの大きな課題ですね。
次の人はどうですか。

学生 S 大学礼拝でお話を聞いている
と、生活の中で悩んでいることや問題
にヒントや解決が与えられることが
あって、良かったと思うことが時々あ
ります。

学生 O 私は初め礼拝が何か疎遠な気

がしましたが、礼拝へ続けて出ている
内に、とても身近なものだという印象
を持つようになりました。

学生 K 高校がカトリックで礼拝のミ
サはありましたが、学院の礼拝はまた
雰囲気違ってきます。礼拝堂がとも
て大きく、いろいろな歌が歌えてとて
もよかったです。

学生 Y 最初は話が堅苦しく、長いと
いう印象でしたが、だんだんと面白く
なってきた。最近週に四回くらい出て
います。(一同驚き！)

——全体的には、みなさん、大学礼拝
は最初に戸惑ったようですが、良い印
象をもっているようです。

★大学生活について

——大学生活はどんな様子ですか。

学生 S 私は実家が遠いので、アパー
トで暮らしていますが、何から何まで
自分でしなくてはならないので、最初
は戸惑うことが多かったのですが、だ
いぶ慣れました。親元から離れてみる
と、今さらながら、お母さんの味噌汁
が美味しい！(一同笑い)

学生 K 一人暮らしを始めたから、こん
なに自由な時間があるのかと思いまし
た。ついなんでもさぼりがちで、いい
加減になってしまいます。これではい
けないと気づいて、自分から積極的
に何でもするようになりました。

——なるほど、みなさん、新しい体験

をしているようです。次の人はどうで
すか。

学生 Y 私は実家から通っているの
で、まだ一人暮らしを知らないのです。
ところで、大学で春や秋の学期の始まる
時、提出物が多くてかなり負担です。
講義の登録とか、資格関係とか奨学金
とかいろいろあってこの時期はめんど
うだなと思ってしまいます。始まって
しまつと気にならないのですが。(一同
同感！)

——ふむ、確かに始まりは大変ですよ
ね。
で、私は図書館にこもるタイプで、図
書館で講義の課題をするだけでなく、
何でも好きなことをやっています。一
年間はあつという間に過ぎてしまいま
した。

★講義について

学生 S 大学で自分の好きな科目の講
義を受けていると早く時間が過ぎてし
まいますが、好きでない科目や一般科
目は時間が長く感じます。

学生 O 私の受講している講義はたい
くつな授業が多く、人数も多いので、
今のところあまり講義が面白くないで
す。

——なるほど、早く専門科目や興味
のある講義を受講できるようにするとい
いですね。

学生 N 私はこの春卒業しますが、面

白い授業が多かったですね。眠るとか
全然なかったですよ。いつも目がぱっ
ちりと。(一同笑い)

学生 K 私も講義がめっちゃ楽しいで
す。不得意な分野はちよつと眠いけれ
ど、得意な分野になるともう夢中です
ね。

——みなさん、結構、個人差がありま
すね。

学生 Y 私は講義は必ず最前列に座り
ますよ。もう習慣になっていて、質問
もしやすいし、同じように最前列に座
る人と友達にもなれるし。でも、面白
くない授業では瞑想しています。

——最後に、大学生活を送る上で大切
なことは、友だちを見つけることです
ね。紙面もなくなつたのでこの話題は
紹介できませんが、みなさん、クラス
で、サークルで、いろいろなきつかけ
で気の合う友だちを見つける努力をし
ているようです。
インタビュに協
力してくれて皆さ
んありがとう。た
くさんの意見を短
くまとめました。





〈聖歌隊で一緒に歌いませんか?〉

宗教部・聖歌隊

新入生の皆さんはきっと、サークルどうしよう…と悩んでいることでしょう。是非、私たちと一緒に活動してみませんか。聖歌隊には、音楽初心者、経験者、クリスチャンもいればそうでない人も多く、男声女声合わせて約20名で活動しています。ですので、クリスチャンでなくても、合唱の経験が無くても大歓迎です!

この大学の中心でもある大学礼拝には、音楽礼拝というものがあります。そこで聖歌隊が賛美歌を披露することがあります。礼拝堂はとも声が響き、素敵な空間を体感できます。それだけで無く、秋には土樋礼拝堂で宗教音楽の夕べ、クリスマス礼拝では『ハレルヤ』でお馴染みのヘンデルのメサイアを演奏するなど、本番の機会が沢山です!

大学では、自分から色々な環境に挑戦していかねれば、ずっと狭いコミュニティのまま。学部、学年を超えてコミュニティを広げることを、私はオススメします。色々な考え方や先輩からのアドバイスは刺激になり、新しい道を開拓するきっかけや手助けになります。聖歌隊はあくタイプでお喋りな人が多いので、先輩と仲良くなれること間違いありません!

choirtgu@gmail.com、又はツイッターアカウント@choir_gakuin16で、気軽にご連絡ください!あなたと一緒に、礼拝堂で賛美出来ることを楽しみにしています。

(執筆 聖歌隊3年 大橋奈々)

〈歌は声と声とのコミュニケーション〉

聖歌隊指導者 中川郁太郎

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。聖歌隊の指導をしている宗教音楽研究所の中川です。

宗教部聖歌隊は、大学礼拝で歌うこ

とを中心に、入学式、卒業式での演奏やクリスマスのメサイア(合唱など)、多彩な活動をします。チャペルに集まってくる学生により良い歌を届けるために、隊員たちは毎週木曜日の練習を重ねながら、普段は広々とした聖歌隊室で友達と学校生活やバイトのことなどを語り合い、ゆったりと楽しい時間を過ごします。隊員にはクリスチャンもそうでない人もいますし、音楽経験や合唱経験はまったく問いません。①④のどれか一つでも関心が有るあなた!私たちと一緒に歌いませんか?!

- ① 歌をつたう
- ② 声で自分を表現する
- ③ 声と声とを合わせて音楽をつくる
- ④ ステージに立つ

私は泉キャンパスでは「音楽混声合唱」の授業も担当しています。「合唱=地味で退屈」というイメージを打破し、生身の声と声とのぶつかり合い(?)を体験してもらう授業です。スマホを介したやり取りでは決して味わえない、声と声との直接的なコミュニケーションの素晴らしさを、一人でも多くの皆さんに知っていただきたいのです。授業でも聖歌隊でも、いつでも皆さんをお待ちしています!



大学礼拝について知っておきましょう

東北学院大学では、講義のある日は大学礼拝を毎日行っています。これは創立した時から現在にいたるまで不変であり、「建学の精神」の具体的な現れです。新入生も在校生も大学礼拝の大切さを知って、午前中にキャンパスにいる時には必ず出席しましょう。皆さんの学びに欠かせない「軸」であり、「養い」です。大学礼拝は教会の礼拝より短く設定され、学生の皆さんを対象に準備されています。

なお、音楽礼拝や英語礼拝など多少変則的なスタイルの礼拝も行っていますが、大学礼拝の基本的なことをお伝えします。

<前奏>

Prelude

第1校時が午前10時20分に終わるとチャイムが鳴り、礼拝堂ではオルガンの前奏が始まります。礼拝堂の最前列から順に着席して下さい。私語は慎み、電子機器はしまって、心を静めて礼拝に備えましょう。

<讃美歌>

Hymn

司会者が讃美歌の番号を告げます。起立して、心をこめて、声高らかに、一緒に讃美歌を歌いましょう。歌詞を味わうことも大切です。そのうち、自分の好きな讃美歌もできるでしょう。

<聖書>

Bible

司会者が聖書を開くように指示します。礼拝堂に早く来た人は、あらかじめ開いて読んでおくことをお勧めします。聖書は旧約聖書と新約聖書で構成されています。それぞれに頁数が付されていますのでよく確認してください。聖書には、人が生きていく上で必要なすべてのことが網羅されていると受け止められてきましたので、一語一句、大切な教えとして聞くように心がけましょう。

<説教>

Preaching

司会者は、本学の宗教部の先生たちやクリスチャンの先生方であり、教会の牧師の方々が担当される日もあります。どの人も、その日に朗読した聖書に基づいて話されます。一般に「説教」というと、「叱られている」という意味もありますが、「礼拝の説教」は、「聖書を説いて教える」とことと理解してください。大切なことは、聖書の「福音」を聴くことであり、人類への「神の貴い愛」を知ることです。

<祈祷>

Prayer

司会者は、聖書を説いた後、神の恵みと平安、導きを願う祈りを捧げます。祈りの最後に、司会者と出席者全員で「アーメン」と言います。「そのとおり」の意味です。祈りをみんなで共有する思いで、「アーメン」と唱和しましょう。讃美歌を歌った後の「アーメン」も同じ意味です。

<頌栄>

Congregational Response

神の栄光をたたえる短い讃美歌です。頌栄の後、黙祷を捧げます。

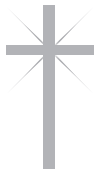
<後奏>

Postlude

オルガンの後奏は、「世へ派遣」を意味し、皆さんを礼拝堂から新しい一日へ送り出します。

(執筆 宗教部長 野村 信)

学生の皆さん



三つのキャンパスで日ごろ大学礼拝を担当されている先生方をご紹介します

本学の大学礼拝を担当している先生方は、宗教部の先生たちや各学部にも所属するキリスト者の先生たちです。みなそれぞれの専門分野で活躍されており、礼拝では多様に聖書を説き明かされます。

●佐々木哲夫先生（院長…前列中央左）

旧約聖書の専門家で、前宗教部長です。学院全体のために働いておられます。

●野村 信先生（宗教部長…前列中央右）

十六世紀のジュネーヴの宗教改革者・カルヴァンの研究が専門です。大学の宗教活動の責任者です。

●出村みや子先生（総合人文学科長…前列右2）

古代のギリシア教父オリゲネスの研究がおもな専門です。ギリシア文学についても造詣が深いです。

●今井奈緒子先生（大学オルガニスト…前列右端）

キリスト教音楽が専門で、オルガニスト、通奏低音奏者として演奏活動や指導をしています。



●鐸木道剛先生（文学部教授…前列左2）

キリスト教美術が専門で、正教会のイコン（聖像）をはじめ、東欧の芸術にも精通しています。

●北 博先生（大学宗教主任…前列左端）

旧約聖書の研究がおもな専門です。中東だけでなく、フィリピンなどアジアへの関心も高いです。

●原田浩司先生（大学宗教主任…後列右1）

スコットランド宗教改革や長老教会の研究が専門です。宗教部の書記を担当しています。

●長島慎二先生（工学部准教授…後列右2）

流体工学が専門です。旭ヶ岡寄宿舎舎監も兼任。

●大澤史伸先生（教養学部准教授…後列右3）

社会福祉学が専門です。

●中川郁太郎先生（宗教音楽研究所員…後列右4）

聖歌隊など、合唱の指導を担当しています。専門は、教会音楽の研究です。

●阿久戸義愛先生（大学宗教主任…後列右5）

二〇世紀の神学者カール・バルト研究がおもな専門です。柔らかな語り口調が好印象です。

●藤原佐和子先生（大学宗教主任…後列右6）

専門は、エキユメニカル神学です。タイにおける女性とキリスト教の問題についても研究中です。

なお、写真に掲載されていない先生方で、学長・松本宣郎先生を始め、若手の大学宗教主任・吉田新先生がいます。吉田先生は新約聖書の研究を専門とし、聖書翻訳事業にも携わっています。

今回は、礼拝を担当するすべての先生たちを紹介できませんでしたが、学内の先生たちと近隣の多くの教会の牧師の方々によって、毎日の大学礼拝は行われています。

皆様、本当にご苦労様です。今年度もよろしくお願いたします。

（執筆 野村 信）

第13回 「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ



大学オルガニスト
今井奈緒子

この講座は、礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝堂のオルガンを用いて指導します。単位に関係のない講座ですので、卒業まで継続して受講することも可能です。受講場所も開講時間に合わせて、希望のキャンパスで受講することができます。

- ◆ **受講資格**
 - ・楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得があること
 - ・レッスン、練習に励む意思のあること

- ◆ **対象**

本学に在籍する学生
(所属学部、学部生・大学院生を問わず)
- ◆ **内容**

オルガンの奏法と作品を学ぶ
(個人またはグループレッスン形式)
ガイダンスと修了演奏会を実施します。

◆ **場所**

土樋・多賀城・泉、各キャンパス礼拝堂

◆ **受講料**

年間一五、〇〇〇円

◆ **期間**

五月〜十二月(レッスンは月二回ペースで実施。その他自主練習、演奏会準備)

◆ **募集人数**

各キャンパスにつき若干名

◆ **講師**

小野なおみ

(礼拝オルガニスト)

今井奈緒子

(教養学部教授、大学オルガニスト)

◆ **ガイダンス開催日**

受講希望者は所属キャンパスに拘わらず、五月十日(木)十六時に、泉キャンパス音楽研究室(礼拝堂一階)の前へ集まってください。ガイダンスの後に受講の意思確認をし、講師との顔合わせ、レッスンの相談、調整等を行います。

出席不可能な場合は事前に宗教音楽研究所までご連絡ください(022-375-1185)。なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただきます場合があります。

宗教部

聖歌隊へのお誘い

みなさん、一緒に歌を歌いませんか。中学、高校とみんなで合唱する楽しさを味わった人は大勢いると思います。大学でもぜひ一緒に楽しく歌いましょう。本学の「聖歌隊」は、長く親しまれてきた合唱曲や宗教音楽、また讃美歌を歌い、定期演奏会で発表したり、クリスマスにメサイアを歌ったり、と楽しい企画が幾つもあります。ボイストレーナーの先生がしっかり指導してくれます。秋に合宿の計画もあります。

歌うことの好きな方は大歓迎です。今年度の第一回の会合は、四月十日(火)のお昼休みに礼拝堂の一階の聖歌隊室で行います。以後、火曜日のお昼休みの「火曜練習日」と木曜日の午後三時からの「木曜練習日」に練習します。是非、参加しましょう。

2018年度

礼拝オルガニストのみなさん



後列左から：京極扶美恵、加藤晶子、小野なおみ、今高和枝、日野百合子、渡辺真理、長谷部真理子／前列左から：亀井緒子、大泉真理、今井奈緒子、坂上芙美恵、阿部和子(この他に、土樋・多賀城キャンパス担当の菅原淑子先生がおられます。)

編集後記

新入生の皆さん、緑の広がる両キャンパスで良く学び、語り、活動し、楽しい大学生活を送ってください。午前中講義がある時は、各キャンパスで毎日行われる大学礼拝へ出席し、心の養いをしてください。貴重な時になると思います。

なお、今夏の八月三日、四日に一泊二日でサマー・カレッジが開催されます。誰でも参加できますので、

礼拝堂の入り口に七月初旬に準備されるチラシをご覧ください。聖書の学び、友や先生たちとの語り合いなど、楽しい企画が用意されます。

二〇一八年四月一日

東北学院大学宗教部

編集 野村 信

〒九八〇-八五一

仙台市青葉区土樋一丁目三番一号